

Y05b 天文学は私たちの文化、天文学のアウトリーチ用の星景写真集の制作 I

大西浩次（長野高専）

いま、全天で 4000 個近い系外惑星が発見されている。これら系外惑星系（主星と惑星たち）に名前をつけるとしたら、どのように命名するだろうか。国際天文学連合 (IAU) は、2014 年から、一般の人々から提案と投票で系外惑星の名前を決める系外惑星命名「キャンペーン」を行なった。その結果、20 の惑星系に対して 45 カ国のさまざまな天文団体から 247 の名前が提案され、一般投票で最高投票数を得た名前より、19 系外惑星系（14 の主星と 31 個の惑星）の名前が 2015 年 12 月 15 日に発表された。これらの内、4 惑星系が日本の天文団体から提案された命名であった。

今回の「キャンペーン」で命名された系外惑星系の名前を見ると 38 % が神話・民話関係、25 % が人名（天文学者など）、20 % が言葉（ラテン語など）などと、人々の文化に根付いた命名であった。これらの命名された系外惑星系に、より多くの人々が親しみを持ってもらうために、また、天文学のいろいろなアウトリーチのための素材として、星と風景の中での系外惑星を持つ恒星を写しこんだ「星景写真」セットを制作した。

夜空を見上げるといろいろな思いを込めた名前のある星を見つけることができる。これらの名前を見ると、天文学は私たちの文化そのものなのだと改めて思う。このような文化を多くの人に広めるためにも、また、天文学の研究のアウトリーチや天文教育のプレゼンテーションのためにも、今回制作した「星景写真」セットを使用していきたい。なお、現在、系外惑星系の紹介用の星景写真の続編を制作すると同時に、すばる望遠鏡 HSC 公開用チャート写真や、X 線や電波などの天体分布表示用の星景写真なども製作中である。この発表を機会に、多くの分野からの制作の要望を受けたいと考えている。